

＜授業改善のチェックリスト＞

外国語活動が中学年に導入され、高学年が教科化になる新学習指導要領の全面実施に向けて、心配や戸惑いがある先生もいると思いますが、ぜひこのチェックリストを参考に常に授業を振り返り、授業改善が進んでいるかを確認しましょう。

- 「めあての提示」「本時の振り返り（まとめ）」がある。
- 教師が、笑顔で児童の頑張りをほめる温かな雰囲気である。
- 児童が失敗しても、笑ったりからかったりしない学級経営ができている。
- 児童が英語を使う必要のある／使いたくなる場面設定をしている。
- 教師が、なるべく英語で指示をしている。
- 教師が、間違いを恐れずに英語を使おうとするモデルを示している。
- 児童の活動が授業の半分以上を占めている。
- 教師は、説明をするよりも、本時のゴールとなるモデルを見せている。
- 十分に練習したり、チャンツ等で慣れ親しんだ後に発話させている。
- 相手に伝えるときは、コミュニケーションポイント（笑顔、はっきりした声、アイコンタクト、ジェスチャーなど）を意識させている。
- ICT等を活用し、視覚的な工夫をしている。
- 文字を使う場合は、4線をなるべく使い、フォントに気を付けている。
(例) a → a, g → g

※ 教科（高学年）で配慮すること

- 文字を読む活動を行う際は、十分に慣れ親しんだ語句や表現にしている。
- 音声を重視して十分に聞かせ、文字を多く使いすぎない。
- 文字を書かせる場合は、モデル文の一部を変えて書き写す程度にしている。
- 教師は、児童ができるようになったことを見取っている。

★ 一番大切なこと

- 教師が、児童と一緒に授業を楽しんでいる。



Let's enjoy English with your students! You can do it!!

～少しずつチェックを増やして、魅力的な授業にしていきましょう～

<教材・環境のチェックリスト>

新教材（中学年 Let's Try!, 高学年 We Can!）が配布され、それにともない教師用の指導編やデジタル教材も各校に配布されました。先生方の負担を減らしつつ、効果的に授業づくりができるように、文部科学省は様々な教材等を作成しています。これらのものが活用できる環境になっているかを確認し、よりよい学習環境へと整備していきましょう。



- 外国語活動（英語科）の年間指導計画ができています。
- 新教材のデジタル教材がパソコンにインストールされている。
- 新教材のデジタル教材を見たり動かしたりしたことがある。
- 新教材のデジタル教材を授業で使ったことがある。
- 文部科学省HPの「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」を知っている。見たことがある。
- 分からないことがあったら、「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」で確認している。
- 「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」を使って校内研修をしたことがある。校内研修を受けたことがある。
- 文部科学省HPの学習指導案例やワークシートを見たことがある。
- 文部科学省HPの学習指導案例やワークシートを活用している。
- 文部科学省HPの Small Talk の例文や動画を見たことがある。
- 教職員同士で、有効な教材や教材の使い方等の情報交換をしている。
- 単元や内容ごとにピクチャーカードやセンテンスボード等の教材を整理し、誰もが授業で使える状態になっている。
- 外国語活動（英語）主任やALTだけでなく、外国語教育に携わる教職員全員で協力して教材を作成している。

★ 年度後半や年度末に確認すること

- 年度によって、児童の学習時間や学習内容が違うので、児童の実態に合わせて年間指導計画の見直し・修正をしている。
- 指導編やデジタル教材を次年度に引き継いでいる。

※ 平成31年度以降は、児童用の教材のみ配布となり、指導編やデジタル教材の配布はありません。確実に次年度に引き継いでください。